

学生の声

HIST

大阪大学大学院基礎工学研究科 木村 朝子 中澤 篤志

1. はじめに

ここでは、学生が主体となって活動している HIST について紹介したいと思います。HIST は、ヒューマン・インタフェース (HI) の研究に携わる若手研究者のためのコミュニティです。

HIST は、1997 年に関西大学で行われたヒューマン・インタフェース・シンポジウム (HIS) において、加藤博一先生が企画されたワークショップ「学生討論：若者こそが HI 研究を創る」に集まった学生有志により発足されました。当時、京都工芸繊維大学、中京大学、大阪市立大学、大阪大学の4回生からドクターコースの学生まで、計20人の学生 (図1) が参加しました。

2. HIST

HIST は、いろいろな立場で HI 研究を行っている若手研究者同士のコミュニケーション・ネットワークを作ることを目的として活動を開始しました。その後、多くの学生および企業の若手研究者が加わり、現在 40 人を超えるメンバーが集まっています。各メンバーの専門分野は、認知、ユーザビリティ、インタフェースデザイン、コミュニケーション手法、CSCW、ヒューマンエラー、教育支援システム、手話、音声、文字など実に多彩です。

私たちは、このような HIST の役割を以下のように考えています。

- ・若手研究者同士が友好を深める場
- ・それぞれの研究分野に関する知識や情報を持ち寄り、お互いの知識・情報を共有する場 (専門分野に関する知識のデータベース化)
- ・異なる環境、分野の若手研究者同士が議論することで新たな発想、指針のヒントを得られる場

- ・若手研究者が団結して1つのものを生産する場

友好を深める場なので、研究以外の話題 (最近では、どらやきについてのメールがありました) に大笑いすることもありますし、各メンバーの専門分野と所属が比較的広範に分散しているので、企業研究者と学生、デザイナーと評価者といった、日頃なかなか交流することのない若手同士が気軽に情報交換・議論することもできます。以後、HIST の様々な活動について具体的に説明したいと思います。

3. 活動内容

メーリングリストによるコミュニケーションから始まった HIST ですが、その他にもいくつかの活動を行っています。設立の発端となったワークショップをはじめ、最近ではインタフェース評価事例集を WWW 上に構築するという試みも行っています。

3.1 メールによる情報交換

メーリングリストはもっとも活発かつ重要な情報伝達手段です。基本的に記事の内容は問いませんが、主に二つの用途で使われることが多いようです。一つは、HI に関する各種学会、イベントや文献、ソフトウェア、ハードウェアの新製品などの情報の共有です (例えば「先日某先生が NHK の解説番組に出演されたが、本番で手元のノートパソコンが動かなくなってしまった」などの裏話を、その先生の研究室に所属する学生さんに聞いたりできます)。もう一方は、メーリングリストでさまざまな議論を行っていくことです。誰かが話題 (ネタ) をもちこむと、メンバー各人の専門分野から見たさまざまな意見が飛び交います。ネタは、

- ・パソコン OS の使いやすさ



図1 HIST 発足当初のメンバー (HIS'97 ワークショップ)

- ・音声認識システムの問題点や将来
- ・メディアアート

など多岐にわたっており、多い日には1日20～30通のメールがやり取りされます。例えば「音声認識システム」の話題は、ある新規参加者の方が音声対話によるリモコンインタフェースについてポストされたことから始まりました。その後「どのような場面で音声認識インタフェースが有効か?」、「音声は言語化に対する負担が高いのでインタフェースに使うのは不向きではないか?」、「それでも、状況に応じてニーズはあるのではないか?」、「音声インタフェースに適したガイダンス(ヘルプシステム)を開発する必要があるのではないか?」などの意見が出され、提案者をはじめ多くのメンバーにとって音声インタフェースに関して考えるよい機会になりました。

3.2 WWW上での「インタフェース評価事例集」

メーリングリストでの情報交換と並行して、対象とするカテゴリを設定し、WWW上の会議室でそれに対してさまざまな議論を行う「インタフェース評価事例集」を構築する試みも始められています。これは現在実際に販売されている製品に対して、専門分野や立場をこえてオープンに議論できる場を提供し、問題点や解決策を求めようという試みです。こちらのほうはまだシステムが立ち上がったばかりで発言数もこれからといったところですが、いまのところ「パソコンOSやハードウェア」、「携帯情報端末」、「家電製品」、「携帯電話」などを扱っています(図2)。

またこの試みは、オープンな議論にふさわしいツールとしてどのようなものがふさわしいかを検討していく場でもあると考えています。事実、本システムで使われている

WWWの会議室はメンバーの意見によりいくつもの変更点が増えられています。今後は、さらにシステムに改良を加えることでより使いやすい物にすることに加え、発言数を増やすにはどのような仕組みが必要か、議論の流れをどのように把握していくか、などが課題となっています。

3.3 文献データベースの構築

メーリングリストで話題となった文献やURLなどをデータベースに登録し、自由に検索できるシステムを構築する試みを行っています。また各文献には登録者の感想や要約なども登録可能にすることで、利用しやすくする工夫も行っています。

3.4 ワークショップ

事務局の方々のご協力もあり、このメーリングリスト発足の契機となったHISで毎回ワークショップを開かせていただいています。今年のHIS'99でも「若手研究者が考えるHIの現在と未来(仮)」と題したワークショップを企画しています。具体的には、「若手研究者による講演とディスカッション」、「既存製品のユーザビリティ評価大会」などを行う予定です。

ワークショップ参加者募集:

HISTに興味を持たれた方は、下記のアドレスまでメールして下さい。折り返し登録フォーマットをお送りします。詳しくはHISTホームページをご覧ください。

E-mail : hist-request@inolab.sys.es.osaka-u.ac.jp

URL : http://hist.dj.kit.ac.jp/

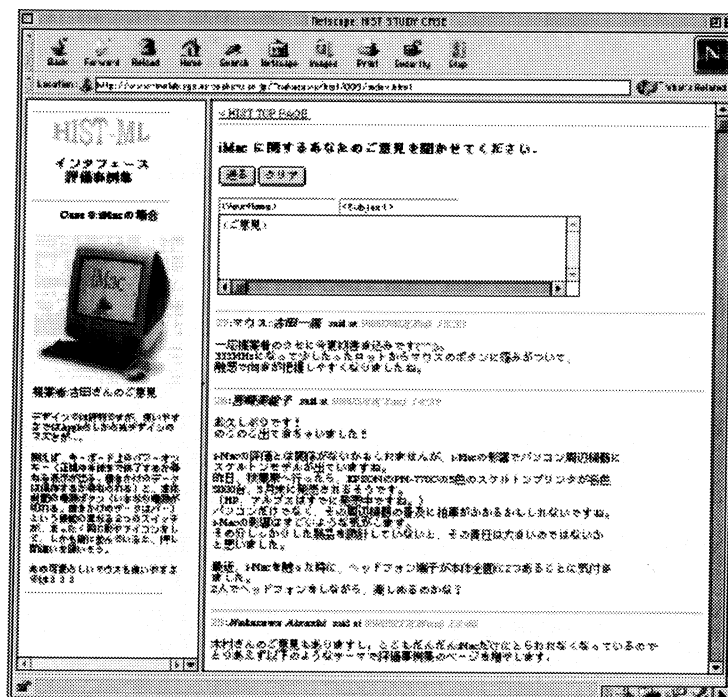


図2 インタフェース評価事例集